

平成23年度環境活動レポート

活動期間:平成23年4月1日～平成24年3月31日

平成24年6月7日作成

株式会社池田商店

1、環境方針

環 境 方 針

[理 念]

当社は、現代社会において地球環境の保全、及び低炭素社会の構築が最重要課題であること、またそれらの構築に重要な役割を担っている企業であることを認識し、産業廃棄物の中間処分業を通して廃棄物の再生使用と資源化を促進すると共に産業廃棄物の最終処分量の削減を図ることによって、環境保全に努め、循環型社会の形成に貢献します。

[方 針]

環境保全に貢献することが、当社の事業活動の根幹を成す重要課題でありますので、日頃の事業活動の中で環境保全に配慮して以下の活動を行います。

- 1) コンクリート製建造物の解体に伴い発生する廃棄物を処理し、路盤材等に再生する事業活動に於いて、環境に与える影響を的確に把握し、技術的、経済的に可能な範囲で環境目標を定め、管理プログラムを設定し、これを実行すると共に、定期的見直しを行い、環境汚染防止及び環境保全活動の継続的改善とその向上を図ります。
- 2) 環境保全に関する法規制を遵守して環境保全に取り組みます。
- 3) 保全活動を推進するための環境管理組織を整備し、活動目標を定め全員参加で推進します。
- 4) 事業活動の中で、特に以下の項目について優先的に保全活動を推進します。
 - ①. 産業廃棄物最終処分ゼロ活動
受け入れた産業廃棄物は、分別を密に行い、100%リサイクルを目指すと共に適正な廃棄処理を行います。
 - ②. 節水活動
作業場における発塵防止散水を行って地域社会への影響を抑えます。一方、節水に努めて散水を行います。
 - ③. 省エネルギー活動
 - a) 事業設備及び事務所における省電力に努めます。
 - b) 輸送及び作業用車両のエコドライブと保守点検の励行に努め、温暖化ガスの排出削減に努めると共に作業の安全確保に努めます。
 - ④. 環境保全活動
 - a) 事業設備から発生する廃油は、適正に処理します
 - b) 自社から排出するゴミは減量化及びリサイクルを図ります
 - c) グリーン購入を積極的に図ります
- 5) 環境マネジメントシステムの維持と継続的改善に努めます。
- 6) 作業場周辺の整備、清掃を推進すると共に周辺地域とコミュニケーションを図り、地域社会に貢献します。
- 7) 環境教育を実施し全社員が環境方針の遂行に当たり環境に関する意識向上を図ると共に、取引先へも環境基本方針を周知し、理解と協力を要請します。

平成20年7月1日制定

平成23年6月1日改訂

株式会社池田商店

代表取締役 川嶋 哲郎

2 事業活動の概要

1) 事業所名及び代表者名

株式会社 池田商店

代表取締役 川嶋 哲郎

2) 所在地

○本社(登記上): 〒105-0011 東京都港区芝公園2丁目4番1号A-10階

連絡先: 〒241-0802 神奈川県横浜市旭区上川井町2446外5筆

○横浜工場: 〒241-0802 神奈川県横浜市旭区上川井町2446外5筆

3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 横浜工場長 三本 鋭植

連絡先 事務局 寺田 淳利

電話 045-924-6025 FAX 045-924-6026

4) 事業の規模

- a) 法人設立年月日 昭和49年10月1日
- b) 資本金 2,400万円
- c) 社員数 27人 (2012年3月末現在)
- d) 売上高 7億6千万円(2011年度)
- e) 延床面積 8,255㎡

f) 産業廃棄物収集運搬実績 41,706 トン 平成23年度

g) 産業廃棄物処分実績 169,373 トン 平成23年度

5) 会社の沿革

a) 平成20年4月株式会社池田商店を株式会社タケエイが買収し、100%子会社として傘下に収めた。

会社名はそのまま池田商店としている

b) 合併を円滑に立ち上げるために、旧池田商店本社を本社事務所としていたが、業務効率のために

平成22年8月本社事務所を横浜工場内に移設すると共に、登記上の本社を株式会社タケエイに

移した。

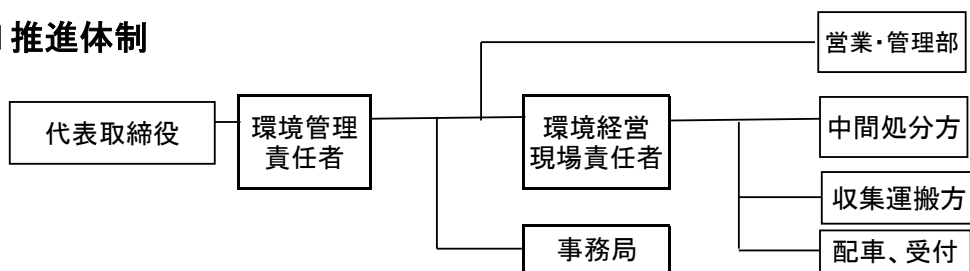
3 対象範囲(認証登録範囲)

1) 対象事業所: 本社・横浜工場

2) 事業の活動:

産業廃棄物の収集運搬業及び中間処分量、砕石販売業

4 EA21 推進体制



職務	責任及び権限
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針を策定する。 ・EA21の実行に必要な資源を用意する。 ・環境管理責任者を任命する。 ・EA21の全体的な取り組み状況を評価し、見直し、必要な指示を行う
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムを構築し維持する。 ・環境経営システムの構築、運用状況を代表に報告する。 ・環境活動レポートを取りまとめる。 ・環境に関し代表に上申する。
環境経営現場責任者	環境経営に関する現場指揮及び実績管理 ①プラント運転、荷役作業、収集作業統括 ②省エネ、燃費改善活動推進責任者

5 産業廃棄物の収集運搬業及び中間処分業の許可の内容

1) 産業廃棄物収集運搬業

許可番号一覧

株式会社 池田商店
平成24年4月1日現在

都道府県・市名	業区分	許可番号	許可の年月日	許可の有効年月日	●:石綿含有産業廃棄物を含まない ◎:石綿含有産業廃棄物を含む								備考
					腐 布 ラ ス チ ツ ク リ 類	紙 く ず	木 く ず	綿 織 く ず	金 属 く ず	ガ ラ ス く ず 及 び 陶 磁 器 く ず	鉱 さい	が れ き 類	
東京都	収集運搬	第1300020263号	平成21年7月1日	平成26年6月30日						◎	●	◎	
神奈川県	収集運搬	第1403020263号	平成23年8月13日	平成28年8月12日	●	●	●	●	●	●	●	●	
横浜賀市	収集運搬	第06802020263号	平成22年8月11日	平成27年8月10日	◎	●	●	●	●	◎	●	◎	
千葉県	収集運搬	第01200020263号	平成22年6月29日	平成27年5月28日	●	●	●	●	●	●	●	●	
埼玉県	収集運搬	第01100020263号	平成22年6月18日	平成27年5月17日	●	●	●	●	●	●	●	●	
茨城県	収集運搬	第00801020263号	平成22年8月25日	平成27年8月24日	●	●	●	●	●	●	●	●	
群馬県	収集運搬	第01000020263号	平成22年8月19日	平成27年8月18日	●	●	●	●	●	●	●	●	
栃木県	収集運搬	第00900020263号	平成22年5月31日	平成27年5月30日	●	●	●	●	●	●	●	●	

2) 産業廃棄物中間処分業

①横浜市

a. 第56-20-020263号

許可:平成4年1月1日

有効:平成28年12月31日

b. 施設所在地 横浜市旭区上川井町2446外5筆

c. 破砕施設 移動式1基(297t/日)

産業廃棄物の種類 ガラスくず及び陶磁器くず、鉱さい、がれき類
(除く特別管理廃棄物)

d. 破砕施設 移動式1基(675t/日)

産業廃棄物の種類 ガラスくず及び陶磁器くず、鉱さい、がれき類
(除く特別管理廃棄物)

e. 保管数量 7,089m³

f. 最高保管高さ 3.75m

3) 施設等の状況 (H24年3月31日現在)

ダンプカー 11台

破砕施設 移動式1基(297t/日)

破砕施設 移動式1基(675t/日)

ユンボ 5台

シャベル 1台

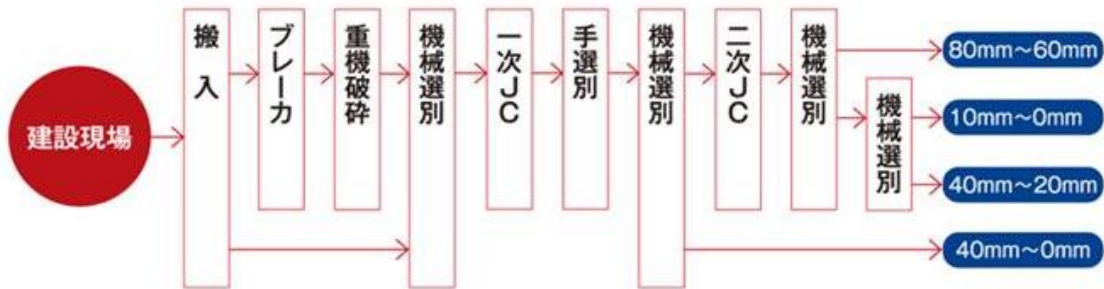
タイヤショベル 2台

6 処理フロー図

長年のノウハウを集約し、効率的な事業フローを確立。

池田商店では、廃棄物の収集・運搬から、破碎、選別、再生品化まで、長年のノウハウを集約した効率的な事業フローを確立。スラグ、自然石、大塊ガラなどの回収から、高品質の再生骨材、再生砕石の販売まで、皆様のニーズに合わせたきめ細かなサービスをご提供いたします。

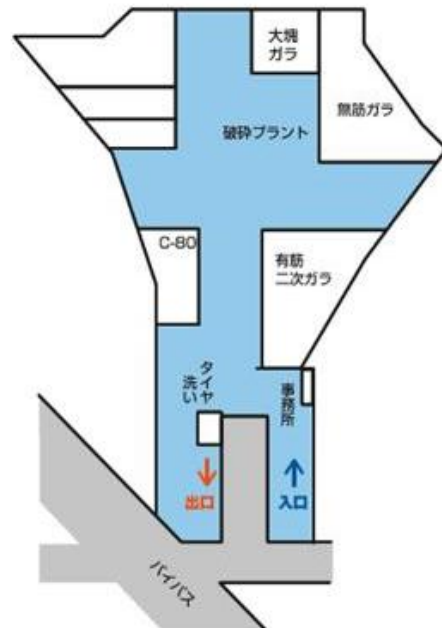
リサイクル処理フロー



施設紹介



工場案内図



7 環境目標とその実績

7.1 第2次中期環境目標

- (1) 環境負荷項目は、廃棄物の収集運搬量や工場の処分量に比例する割合が高い。従って日常は使用量で管理するが、活動評価は原単位での評価も併せて行う
- (2) 今後中間処理量は増産基調のため、エネルギーは増加傾向にあるが、EA21活動の強化で増加を抑制し中期計画の基本は22年度横這いとする。ただ運搬用軽油は走行距離増のため、若干の増で設定する
- (3) グリーン購入は、対象品が多種類、かつ間欠的な購入のため、品物を定めての定量的な管理が困難である。このため、1年間の活動をチェックシートで評価する。

項目	単位	基準年 (22年度)	平成23年 度	平成24年 度	平成25年 度
電気使用量	Kwh/年	181,074	△0	△0	△0
	kwh/処分量	1.29	1.23	1.17	1.12
軽油使用量(重機)	L/年	136,668	△0	△0	△0
	L/処分量	0.97	0.93	0.88	0.85
軽油使用量(車両)	L/年	156,626	+15%	+15%	+15%
	L/収集量	3.55	4.08	4.08	4.08
温室効果ガス排出量	kg/年	845,393	+7%	+7%	+7%
水使用量(総排水量)	m3/年	1,428	+10%	+10%	+10%
	L/処分量	10.2	10.64	10.16	9.71
産業廃棄物の収集運搬量	t/年	44,100	0%	0%	0%
産業廃棄物の処分量(リサイクル量)	t/年	140,630	+5%	+10%	+15%
			147,662	154,693	161,725
廃棄物最終処分量	kg/処分量	0.50	0%	0%	0%
			0.50	0.50	0.50
グリーン購入(チェックシート管理)	達成率	90	90	95	100

7.2 主な活動内容とその結果

区分	項目	平成23年度の環境活動の取組施策	評価
二酸化炭素の削減	軽油使用量の削減	① 車輛エコドライブ(アイドリングストップ)	○
		② 重機の効率的な使用(アイドリングストップ)	○
		③ 燃費管理データ収集	○
	電気使用量の削減	④ 定期点検の徹底	○
		① 節電告知ラベル貼付	○
		② エアコン省エネ設定運転	○
水資源	地下水使用量の削減	③ 不必要照明消灯(減灯)	○
		④ クールビス・ウォームビスの展開	○
		⑤ 節電製品・機器への切替	○
		⑥ 高効率タイプ照明器具への切替	○
		① 適正散水実施	○
		② 雨水利用	○
廃棄物の削減	最終処分量の削減	③ 洗車水、散水の節約	○
		① 手分別作業の改善	○
		② 分別作業の標準化	○
	リサイクルの拡大	③ 処分方法の見直し	○
		① 金属類の分別回収による資源化	○
		② 廃プラスチックの分別回収による資源化	○
一般廃棄物の削減	③ 木くずの分別回収による資源化	④ 廃油のリサイクル	○
		① 紙類の分別回収と適正処分	○
		② 裏紙使用の推進	○
グリーン購入	③ 修理可能な製品の優先購入	① エコマーク文房具の購入拡大	○
		② コピー用再生トナーの使用	○
		③ 修理可能な製品の優先購入	○

7.3 平成23年度の目標と実績

平成23年度実績は、平成23年4月から平成24年3月迄の年間実績です。

項目	単位	中期目標値	実行目標値	実績値	達成率(%)
電力使用量	kwh/年	181,094	181,074	165,293	110
	kwh/処分量		1.23	0.98	126
軽油使用量(重機)	L/年	136,668	136,668	131,394	104
	L/処分量		0.93	0.78	120
軽油使用量(車両)	L/年	180,120	180,120	177,320	102
	L/収集量		4.08	4.25	96
温室効果ガス排出量(注)	Kg-CO ₂ /年	907,049	911,825	884,670	103
水資源投入量	m ³	1,571	1,571	1,463	107
	L/処分量		10.64	8.64	123
産業廃棄物の収集運搬量	t/年	44,100	44,100	41,706	95
産業廃棄物の処分量(リサイクル量)	t/年	147,662	147,662	169,373	115
廃棄物最終処分量	Kg/処分量	0.50	0.50	0.47	106
グリーン購入	%	90%	90%	93%	100

注) 電力の二酸化炭素排出量算出は、排出係数0.378kg-CO₂/kWhを用いています。

注) CO2排出量の中期と実行目標値差はガソリン実績値差(管理は実績=目標で実施)による

7.4 平成23年度環境活動の取組結果の分析

(1) 過去3年間の活動実績推移

項目	単位	平成20年 実績	平成21年 実績	平成22年 実績	平成23年 実績
温室効果ガス排出量	Kg-CO ₂ /年	638,040	1,035,412	845,393	884,670
水使用量	m ³ /年	1,410	1,809	1,428	1,463
産業廃棄物の収集運搬量	t/年	-	-	44,100	41,706
受託した産業廃棄物の処分量	t/年	203,905	266,262	140,680	169,373
リサイクル率	%	100.0	100.0	99.5	99.5

(2) サイト別管理について

平成22年8月本社事務所(東京都世田谷区)を横浜工場内に移設しました。旧本社分の環境負荷は、横浜工場の負荷に加えて一体として目標値及び実績値管理を実施した

(3) 総エネルギー投入量及び温室効果ガス排出量

当社のエネルギーの消費は、処理量が昨年の1.2倍と増加したが、EA21活動にて目標値内に抑制することが出来た。収集運搬用軽油使用量は車両増車、遠距離への運搬のため、走行距離増等があったが、エコドライブで何とか目標値に収めた。また、破碎機メンテナンスのによる処理効率化も目標達成に大きく貢献した。

エネルギー投入量の増加に比例して温室効果ガス排出も増加した。車両の軽油使用量増が寄与している。今後、走行範囲の拡大を検討しているため、目標値の見直しも検討する。引き続き、エコドライブ、アイドリングストップの励行で取り組み、低炭素社会への貢献していく。

(4) 水資源投入量

当社における水の使用は、生活用水と発塵防止用の散水である。発塵防止用の散水が圧倒的に多い。プラント内の散水噴霧の設備を設置し、散水効率を図っている。タイヤプール及び場内散水作業は、環境保全上必要な消費と考えている。引き続き、水資源の無駄使いをなくし、水使用量抑制を図る。

(5) 廃棄物総排出量

当社における廃棄物は、

- ① 受け入れた産業廃棄物に混入している金属くず、木くず、プラスチックくず
⇒ 手選場を設置して、選別を重視している。選別廃棄物は処理委託で100%リサイクル
- ② 自社事業から出る廃油
⇒ 重機等のオイル交換等により発生した廃油で、油脂再生業者にて100%リサイクル
- ③ 自社事業から出る一般廃棄物
⇒ 主要ごみである紙くず削減のため、コピー用紙の削減を図っている

7.5 平成24年度環境活動の取組計画

- ①活動ベースは第2次中期の平成24年度環境目標値を基本目標として活動する
- ②収集運搬用軽油使用量は、走行距離増が今年も予想されるが、実績の推移を見守る
- ③発じん防止用散水は、処分量増に伴う使用量増は散水方法の工夫で最小限としたい
- ④グリーン購入は可能な限る再生品の使用を心掛ける
- ⑤自社排出一般廃棄物は、主として紙くずのためコピー用紙削減に努力する

8. 社長による総合評価と全体の見直し

実施日：平成24年5月31日

今年度は、品質の強化を目標にした取り組みを行った。より良い碎石を提供するための生産活動、碎石の販路先の開拓をする際に用途に合わせた製品作りを目標に掲げた。加えて安全については、場内での走行ルールを徹底した。

この二点の取組により、商品の性格上重機や車両による作業が増える。今後も安全面、品質面を強化した取り組みの中で、エネルギー消費を最小限に抑えるのが当社の環境経営の最大の強みである

このような取組み強化した結果、重機や車両の走行距離、燃料消費量が増える傾向となった。この点については、入荷と出荷の状況を踏まえながら、適正なエネルギー消費量を検討していきたい。

タイヤプールによる水道水の利用については、近隣配慮の観点から継続する方向であるが、場内及び周辺への散水については、極力、循環水を使用した方法を取りたいと計画している。

次年度においては、現状の工場作業方法の変更を踏まえて環境目標、マネジメントシステムの見直しの検討をした結果、下記のような結論となった。

変更の必要性の有無

①環境方針	変更の必要はない
②環境目標	第2次中期計画をそのまま踏襲する
③環境活動計画	環境目標進捗管理表に、収集運搬量、中間処分量を追加すること
④環境経営システム	変更の必要なし

9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

関連法規の順守状況は、平成24年4月順法性をチェックした結果、法律違反がない事を確認しました。また、過去においても、過去3年間、本活動期間においても関係当局から法律違反の指摘及び指導を受けたことも提訴を受けたこともありません。

当社に關係する環境関連法規は、下記の通りです

- 廃棄物処理法
- 騒音規制法、振動規制法
- 下水道法
- フロン回収破壊法
- 神奈川県環境保全条例
- 労働安全防止法
- 自動車NOX・PM法
- オフロード法
- 自動車車両法
- 道路交通法
- 横浜市廃棄物適正処理規則
- 横浜市生活環境保全条例